

兵庫県の外来種を見つけて伝える

～ひととはく調査隊の取り組み～

濱野 友・三木 巴月・明尾 亮佑・榊原 正宗・佐々木 善英・正木 紫苑・青柳 祐輝・森山 沙耶（兵庫県立大学大学院 環境人間学研究科 共生博物部門）

はじめに

兵庫県内では多様な外来種が確認されており、生態系や在来種への影響が懸念されている。外来種問題の解決には、行政による対策のみならず、県民一人ひとりの認知と理解の向上が不可欠である。そこで私たち「ひととはく調査隊」は、2024年より兵庫県内の外来種の実態把握と情報発信を目的とした調査活動を開始した。本発表では、その調査手法と得られた成果について報告する。

方法

まず情報収集として、外来種に関する文献調査を行うとともに、団体で運営する SNS アカウントを活用し、報告フォームによる目撃情報や投稿へのコメントから情報を収集した。得られた情報を基に実地調査を実施し、外来種を確認した際には写真撮影および位置情報の記録を行った。

捕獲可能な種については捕獲を行い、特定外来生物については適切な方法で駆除を実施した。展示や教育普及活動に活用する個体については、エタノール保存、冷凍保存、生体展示など目的に応じた方法で管理した。

得られた成果は、兵庫県立人と自然の博物館の紀要への投稿、SNS による情報発信、イベントでの展示を通じて広く共有した。

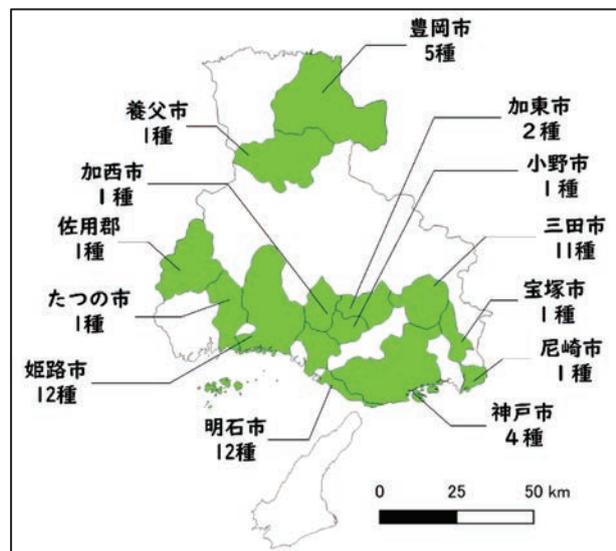


図1 兵庫県内における市区町村別外来種確認種数

結果と考察

2025年6月から12月までの間に、兵庫県内13市区町村において延べ44種の外来種を確認・報告した（同一種でも市町村が異なる場合はそれぞれ1件として計上）。その中には、特定外来生物であるオオクチバス、ブルーギル、スクミリンゴガイ、セアカゴケグモ、ナガエツルノゲイトウなどが含まれていた（図1）。

また、兵庫県三田市の兵庫県立有馬富士公園においてキベリハムシを初確認し、神戸市ではアマミサソリモドキを再確認した。さらに、クビアカツヤカミキリを三田市および神戸市で確認した。

普及啓発活動としては、2025年11月3日に開催された「フラワータウンフェスタ 2025」にて外来種の企画展示を実施し、およそ400名が来場した。外来種を活用した料理展示も行い、来場者の関心を高めることができた（写真1）。

本活動は、外来種の分布情報の蓄積に加え、市民参加型の情報収集と発信を通じて、地域社会におい



写真1 外来種を活用した料理展示

る外来種問題への理解促進に寄与したと考えられる。今後は調査範囲の拡大とデータの体系化を進め、行政や研究機関と連携した継続的なモニタリング体制の構築を目指したい。

謝辞

本事業は、2025年度 公益財団法人兵庫県青少年本部「SDGs HYOGO 青年チャレンジ事業」ならびに2025年度 学生活動支援事業「県大生チャレンジサポート」の助成を受けて実施された。また、本事業の実施にあたり、調査活動やイベント運営にご協力いただいた皆様、ならびに外来種に関する貴重な情報をご提供いただいた方々に、心より御礼申し上げます。